

中野区教育委員会会議録 平成25年第36回定例会

○開会日 平成25年11月29日（金）

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前 10時00分

○閉 会 午前 10時33分

○出席委員

中野区教育委員会委員長	大 島 やよい
中野区教育委員会委員	小 林 福太郎
中野区教育委員会委員	渡 邊 仁
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した関係職員

教育委員会事務局次長	高 橋 信 一
副参事（子ども教育経営担当・知的資産担当）	
	辻 本 将 紀
副参事（学校再編担当）	石 濱 良 行
副参事（学校教育担当）	伊 東 知 秀
指導室長	川 島 隆 宏
副参事（学校・地域連携担当）	濱 口 求
副参事（子ども教育施設担当）	伊 藤 正 秀

○担当書記

子ども教育経営分野	片 岡 和 則
子ども教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長

大 島 やよい

委 員

渡 邊 仁

○傍聴者数 4 人

○議事日程

〔報告事項〕

（１）委員長、委員、教育長報告事項

（２）事務局報告事項

① 平成２６年度中野区立学校の儀式的行事等の日程について（指導室長）

② 平成２６年中野区立学校教育の指導目標について（指導室長）

中野区 教育委員会
第 3 6 回定例会
(平成 2 5 年 1 1 月 2 9 日)

午前 10 時 00 分開会

大島委員長

おはようございます。

教育委員会第 36 回定例会を開会いたします。

本日の委員の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、渡邊委員にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは日程に入ります。

<報告事項>

<委員長、委員、教育長報告>

大島委員長

まず、委員長、委員、教育長報告です。

私から、11 月 15 日の第 35 回定例会以降の主な委員の活動について、一括して報告します。

11 月 22 日金曜日、平成 24・25 年度学校教育向上事業研究指定校・第七中学校研究発表会が行われました。高木委員が出席されました。

私からの一括報告は以上です。

各委員から以上の報告につきまして補足、質問等ご発言等ありましたらお願いいたしますが、私からは特につけ加えることはございません。

小林委員はいかがでしょう。

小林委員

私は 21 日木曜日ですが、勤務する目白大学の学生 4 名が平和の森小学校に 1 週間の観察実習に行っておりまして、ご挨拶かたがた学校を訪問させていただきました。ちょうど給食時でありましたけれども、どのクラスも整然としっかりと準備をして、授業なども落ち着きたい雰囲気で行っていました。4 名の学生もそれなりに先生方のご指導をいただいて取り組んでいたというところでございます。校長先生とお話をして、こういう若いスタッフがいろいろな形で学校ボランティアということで入ってくるということは学校にとっても刺激になるということで、それなりの評価をいただきました。今後とも小学校中学校からすれば、やはり今さまざまな課題を抱えている中で、外部のスタッフを有効に使って行くというのは非常に重要なことだと改めて思った次第です。

以上です。

大島委員長

では、高木委員はいかがですか。

高木委員

委員長からご説明がありました 11 月 22 日、第七中学校の「学校教育向上事業」研究指定校の発表会に行っていました。

第七中学校は防災教育の充実を目指して「災害から命を守るために」というテーマでこの 2 年間、研究にいそしんできたところでございます。

東日本大震災を契機に全国の学校で防災教育に取り組んでいるところでございますが、東京のようにとりあえず中野ですと津波の心配はありませんし、山崩れもない。かといって夜間人口が多うございますので、例えば中野区 15.59 平方キロで 30 万人超の人口があるときに、もし地震があった場合逃げる場所はないですよ。小学校ですとか中学校あるいは公園。あとは一部私学も提携をして校舎等を提供するのですが、全員が入れるようなスペースは実際ないのですよ。そういった中で特に昼間に地震があった場合は、大人の人は皆さん、ここも都心なのですけれども、都心のほうに行って、あと女性も最近働いていますから、高齢者と子どもとあと地域の商店の方だけですので、そういった中で七中は中学校特に 2、3 年生になりますと男子学生は体が大きくなりますので、十分防災に対して力になります。例えば七中防災隊というのを組織して、軽可搬ポンプの大会に出てみたり、あとももちろん防災教育という視点で各学年各教科の中で研究を進めてきたところでございます。

22 日には鎌倉女子大学講師の矢崎良明先生と環境防災コンサルタント、日本で初めての女性消防士のお 1 人の秦好子先生をお招きして、非常に示唆に富むパネルディスカッションがございました。またそれに先立ちましては全学級で公開授業をやりまして、その立派な指導案も配付されまして、テーマがテーマですので中野区だけではなくて、他区の先生方も今後の防災教育を進めるに当たっての参考になるということで、いろいろな方が来て非常に盛況な研究発表会でございました。特に第七中学校は知的の特別支援学級 D 組というのがございまして、そこでも 2 班に分かれまして防災の教育、例えば地震があったときの液状化現象というのはどういうものなのかという成り立ちから学ぶとか、もちろんいろいろな災害時の避難の仕方も含めて学習の発表をしていったところですよ。非常に参考になりました。

私からは以上です。

大島委員長

では、渡邊委員はいかがでしょう。

渡邊委員

特にありません。

大島委員長

では教育長。

教育長

特にございません。

大島委員長

それでは各委員会らのご報告につきまして何か質問等ありましたら、お願いいたします。

特によろしいでしょうか。

では、ご発言がないようでしたら、事務局報告に移ります。

<事務局報告>

大島委員長

事務局報告事項の1番目、「平成26年度中野区立学校の儀式的行事等の日程について」の報告をお願いします。

指導室長

それでは「平成26年度中野区立学校の儀式的行事等の日程について」ご報告を申し上げます。

お手元に資料があるかと思しますので、ごらんいただければと思います。

まず1番目、小学校・中学校の日程でございます。前期・後期と分かれておりまして、前期の始業式が4月7日月曜日。そして入学式は、小学校が同じく4月7日月曜日。中学校は一日ずれて8日の火曜日となります。前期の終業式は10月10日というところで体育の日がある3連休を挟んで後期がスタートいたします。小学校の卒業式ですが3月24日火曜日。中学校の卒業式は3月20日金曜日となっておりまして、後期の修了式は3月25日、小中学校とも25日の水曜日となっております。

2番目ですが幼稚園における日程です。幼稚園は3学期制をしておりますので、まず始業式が4月7日月曜日、入園式は4月9日水曜日となっております。3学期ですが、修了式これは卒園式に当たるものなのですが、3月19日木曜日。終業式が3月25日水曜日

となっております。

以上、小中学校それから幼稚園の主な日程でございます。

大島委員長

ただいまの報告につきまして、質問等ご発言がありましたらお願いします。

日程につきましてはよろしいでしょうか。

それでは続きまして事務局報告事項の2番目、「平成26年中野区立学校教育の指導目標について」の報告をお願いします。

指導室長

「平成26年中野区立学校教育の指導目標について」ご報告をいたします。

まず1番目の「指導目標」ですが、これは大きな変更はございません。

2番目「基本方針」大きく3点ございます。生命尊重それから人権尊重、そして生きる力を育むという形になってございます。

まず生命尊重の教育推進のところですが、1から4までありますが、まず(1)、生命の大切さや生きることのすばらしさを認識させるということで、昨今児童・生徒の自殺だとかそういうことがあるのですが、命が大切だということをきちんと教える必要があるかなと考えてございます。

2の「人権を尊重する教育の推進」でございますが(1)は一部変更してあります。(1)は偏見や差別をなくしというところから始まりますが、後段はいじめの未然防止に向けて、一人ひとりの心に寄り添った指導を充実するとともに、いじめの早期発見・早期対応を組織的に行うという形にしております。

裏面に新旧対照表があるかと思いますが、今年度はいじめの防止に向けてというくだりはあるのですが、まず指導をきちっと充実させる。それから早期発見・早期対応を組織的に行うというところで、今回のいじめの法の改正にも、各学校はいじめに対応できる組織を置くということが定められておりますので、その部分を強調した形で一部修正をしております。

また表面のほうに移っていただければと思います。今の人権尊重のところですが、(2)「障害のある幼児・児童・生徒への理解を深め」というくだりがございます。平成28年度から特別支援教育の巡回指導等も始まるというところがありますので、その準備に入っていきたいと思っておりますので、このような表記になってございます。

3は「生きる力を育む教育」ということで(1)(2)(3)は「知・徳・体」という形で表記を

してございます。(4)につきましては、さらに伸ばしていきたい力として学ぶ意欲、それから課題解決能力、そしてコミュニケーションの力というところで定めております。

大きな3番目の柱として「平成26年度の重点」です。まず(1)はことしから取り組み始めた小中連携教育の一層の推進ということで「学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な教育課程を工夫」ということを定めました。(2)ですが家庭との連携は非常に大切なのですが特に学習習慣の部分に力点を置きたいと考えております。(3)は道徳の教科化等の議論も今、国ではされていますが、意図的・計画的な人権教育それから道徳教育を展開して豊かな心の育成に努めるということでございます。裏面に平成26年度の重点につきまして、新旧対照表を載せてございますので、後ほどご確認いただければと思っております。

報告は以上です。

大島委員長

それではただいまの報告につきまして、質問等ご発言がありましたらお願いします。

小林委員

この指導目標の内容に関しては、どれも重要なことばかりだと思いますので、ぜひこれを具現化して、各学校や幼稚園がしっかりと取り組めるように指導していく必要があると思います。特に大きな変更というよりも、より細かい部分で具体的に示している部分もございますので、いわゆる形骸化することなく、特に教育課程を受理する際には各学校の具体的な取組が見えるような形で、というのは実践を促すということでしょうか、そういったことで教育委員会として力を尽くしていくことが大事なかなと思います。

なお、平成26年の重点の中に「学習習慣」とあるとか、また具体的に「人権教育」とか「道徳教育」というのが示されてきておりますので、この辺も各学校で具体的にどういったことを活動として実践として盛り込んでいくか。そういったこともまた機会があれば報告をしていただければなと思っております。以上です。

渡邊委員

今回の教育目標は非常にすばらしいものができ上がっているなと実感しております。その中でも私としては、今小林委員が言われたように、重点の中に発達段階においてという、教育活動のところに「人権教育及び道徳」という言葉が出てきたことに非常に共感を持てるように思っております。実際、道徳活動というのが具体的にどうやられるかというのは重点項目に挙げられたので、やはり明確に、道徳教育というのはこれからいろいろなじめ全てにかかわってくるのがこのあたりではないかと思うので、かなり具体化しての表現

をされたらありがたいなと思っております。以上です。

高木委員

基本的にはこちらでいいと思います。平成 26 年度の重点のところで「発達の段階」ですとか「学びの連続性」というのが出てきています。これはやっぱり新しい学習指導要領のスパイラル的な考え方、行っては戻って学び落としをなくすというところで非常に重要だと私も思っております。あるいは「意図的・計画的」というのが非常に重要な観点だと思うのですが、ちょっと具体的に、もちろん小林委員が指摘されたように、各学校が創意工夫してやっていくということなのですが、例えば具体的にこういうことを、この重点目標に沿って期待しているなんていうのがあったらちょっと指導室長からご説明というか。余り指導室長のほうから「これをやれ」と言うとは自主的にはならないのですけれども、多分校長先生レベルだとずっと入っていくと思うのですが、例えば現場の先生ですとちょっと難しいかなとか、例示的なところもあったほうがいいのかと思うので、少しご説明いただけますでしょうか。

指導室長

「発達段階」や「学びの連続性」というところなのですが、例えば現在小中連携教育を進めていく中で、今は 6・3 制という形で小学校 6 年生までは学級担任が中心、中学校 3 年間は教科担任制と移行していくわけなのですが、最近の子どもたちの心や体の発達から見て 6・3 制がどうなのかというような議論もされているかと思います。例えば小学校 6 年生、これは今回の小中連携でも提案をしているのですが、交換授業というような形で、教科担任制の一部を小学校 6 年生の授業の中に入れていくというのも、子どもたちの発達段階を考えたときにはやっていく必要があるかなと思っていますし、実際ことしも小学校 2 校ぐらいが先取りという形で、交換授業の形で教科担任制を進めているところがあります。それこそ、それは場当たりのやるのではなくて、きちんとこういう意図を持って、例えばこの単元に絞ってやるとか、そういうことも計画を立てて学校で取り組むと「発達段階」とか「学びの連続性」を踏まえた教育活動につながっていくと考えております。

小林委員

「学びの連続性」ということに関して今、指導室長からも具体的にいわゆる教科指導等にかかわってお話があったと思いますけれども、いわゆる教育の指導内容以外にも、例えば学校施設であるとかその他の学用品も含めて、教育委員会のさまざまな事業の中で「学びの連続性」という視点から見ていく必要があるのかなと思っています。やはり発達段階

が違いますので、当然小学校と中学校とはいろいろな意味で違って当然ということもあるのですが、それがかえって何か停滞を招いている部分もあると思います。今6・3制のということがありましたけれども、ただ単に6・3制を否定するとか賛成するとかそういう視点ではなくて、本当に子どもが連続性を考えていくときに、今の段差がどうなのかということを見直していく上でも教科指導等の連続性も重要なのですが、そのほかのさまざまな教育委員会の部署の中で「学びの連続性」を追求していく必要があるのかなと思っていますので、その点もぜひ今後の重要な課題として考えていただけるとありがたいなと思っています。

高木委員

基本方針の中にいじめの未然防止、「未然」という言葉が加わったということと「早期発見・早期対応を組織的に」というのが加わったことは非常に重要だと思っています。つい先日も小学生が学校内でというような新聞報道もありまして、そういうニュースがない月はないような、非常にその痛ましい状況になっていると思います。ただ、全くいじめをゼロにするというのはやはり人間が社会組織を営む以上は難しいのかなと。我々中野区の定義としては「やられた本人がいじめだと思ったらいじめだ。そういうふうに取り組みましょう」ということですから、客観的にもしかするといじめではないと言う人がいるかもしれない。でもそこはいじめとして扱って直していきましょうということなので、非常に浅いと言いますか、軽度のもので探っていくことになると、非常に範囲が広がってくると思うのです。その中で子どもたち自身がそれをやらない態度を身につけていくということはすごく大切だと思っていますので、もちろん各学級で、担任の先生が日常のクラスコンダクトの中で、その指導をしていくのが基本だと思うのですが、アンケートですとかあるいは先ほど指導室長から説明があったように、クラスの交換みたいなのをやると、ほかの担任の先生の視点で見つかるとか、そういったいろいろな面で基本方針の中でこれを入れて、中野区としてそういう悲惨なことはやらないという決意を新たにしたいという視点がすごく大切だと思っています。

早期発見・早期対応ということで指導室長にお聞きしたいのですが、特にこの近年で教育委員会として取り組んでいるものがあつたらちょっと教えていただきたいのです。

指導室長

中野区ではいじめの総合対策というものを定めてございます。これは昨年度もご報告を申し上げたところなのですが、平成20年度に大きく総合対策というのをつくったのですが、

昨年大津の事件がありましたので、それを見直しました。そしてホームページ等にも、中野区としてはいじめ防止に向けてこういう取組をしているというのは載せさせていただいているところなのですが、その中でいじめの未然防止というところで、まずアンケート調査というのを追跡を含めて年3回という形で実施をしております。アンケートにつきましては児童・生徒だけではなくて、保護者からのアンケートによるご意見もいただいているというところで、そういう形で一定の情報を得るという形もあります。教員の面ですとか子どもたちからのお話なども当然必要になりますが、そういうアンケートもあわせて利用していると。それから今年度から始めたのですが、南北に教育相談室が分室としてございますが、そちらに教員経験のOBの方、それから臨床心理士の方がいらっしゃいますので、それをことしは定期的に各小中学校を巡回してもらっています。この巡回の目的は当然スクールカウンセラーや心の教育相談員がいるのですが、定期的に巡回をすることで学校への啓発という部分もありますし、それから得られた情報を教育相談室の本体の部分につないでいくとか、そんなものもやっております。ことしの成果としてはそういう中で発見できたような例も1、2例ございますので、そのような形で進めています。あとは組織的対応と先ほどお話をしたのですが、各学校でいじめが起きた場合に誰がどう対応するかということはきちんと決めておりますし、あと心の教育担当の教員も配置をしております。

大島委員長

ほかにはよろしいでしょうか。

私から素朴な質問なのですが、重点なのですが、去年の重点に比べてことしはいろいろ細かい語句が加わってより細かい重点目標になっているかと思うのですが、こういうふうに細かく加えたというのは何か意図があるのか、あるいは何か加える必然性を感じるようなことがあったのかとか、その辺もし事情が何かありましたらお願いします。

指導室長

まず(1)につきましては小中連携教育がことしからスタートしたわけなのですが、来年度は2年目を迎えるというところで、先ほどご質問があった「学びの連続性」の部分意識をして取り組んでほしいという思いがあります。実際小中学校の先生方、また校長先生たちからのお話の中で「同じ教科なのだけれど小学校での教え方はそうやっていたのだ」とか「中学校になったらそういうような教え方をするのだ」ということを改めて認識したという声も上がっていますので、その部分を踏まえて表記をさせていただきました。

それから(2)ですが、先ほども少し説明をしたのですが、家庭との連携はさまざま教育で

は必要なのところなのですが、学習習慣というのをいかに子どもたちに育んでいくかといいますか、それは当然学校の中でもそうなのですけれども、家庭に帰ってからの学習習慣というのは学力の向上にとって欠かせないものということですので、その部分を入れさせていただきます。

最後3点目は先ほどもお話があったように、心の教育それから道徳の充実。きちんと道徳の授業をやるということの原則に立ち返って進めていきたいなと思っております。以上です。

大島委員長

わかりました。

渡邊委員

委員の報告とちょっとかかわるのですが、七中の報告事項の研究発表が防災に対する研究発表ということで、実際に私も報告書を読ませていただいたのですが、非常に期待していてその前からうわさにもなっていて、それでこの教育目標とかなり一致する部分が多いのです。まず生命を大切にすることに関しては物すごくそうですし、共助の気持ちと自助の気持ちということで、全ての学校教育の中に安全の関心を高めとか、この教育目標に全て入っていて、本当に実際は国語研究というよりもそういった研究は今回初めて見たという形で、みんなの持てる力を、先ほど言っていた外部の力をうまく使っていくということとか、周りにある資源を活用すると。介護なんかでもよく言われているのですが、身近にある資源をいかに有効に活用していくか。それは人的資源であったりとか物的資源もそのとおりですが、そういった意味でこういった教育って意外にすごく素晴らしいと。1回研究やって、いろいろな評価のところを見て、教員の学んだところとかいいことを書いてあって、ただこれ1回きりで終わるのはもったいなくて、これをいかに教育目標と非常にこのテーマが被っているところがありますので、今後もそういった小研究でもいいですし、小テーマでもやられると、各学校でやられるほうが非常に望ましいと思われます。大々的に研究事業で2年間でやって、結果を出すというのは大変だと思うのですが、これを受けて教育目標と合致する部分もあるので、また東京都の防災計画の中にも大学の方々に協力していただくというような計画も出ていますので、ぜひこういったことを踏まえて、教育目標の具体的な事例として取り上げていただければうれしいなという私の個人的な意見です。

指導室長

防災教育の充実につきましては、定例の校長会でも教育長のほうからたびたびそういうようなお話がございます。校長先生方はそれを踏まえた形を展開していただけていると思っています。例えば具体的に言いますと、防災隊は七中だけではなくてほかの中学校にもほぼ全校設置されていますし、これから来年度の教育課程について指導室のほうから説明をするわけなのですが、その教育課程の位置づけの中に防災教育の充実というものを説明をしていきたいなと思っています。

大島委員長

そのほかにご発言はよろしいでしょうか。

それでは事務局でそのほかにも報告事項はありますか。

指導室長

前回の教育委員会でいじめの円グラフの部分があったと思うのですが、これについては数値が重なっているものも含めて計算されていたために、パーセンテージ等が違ってしまったということでお詫びを申し上げたいと思います。円グラフについては削除して、改めてお示しをしたいと考えてございます。

大島委員長

そうしますとこのグラフについては削除すると。

指導室長

数値が重なって入ってしまっていますので、表の部分とグラフのパーセンテージが合わなくなっていますので、そのパーセンテージをあらわした部分については削除して数値のみでご報告をさせていただきたいと思います。

大島委員長

わかりました。

ではこのグラフはあくまで参考ということで。

指導室長

訂正をさせていただきます。

大島委員長

わかりました。では訂正していただいたということで。

ただいまの報告についてはよろしいでしょうか。

小林委員

この件については了解いたしました。いじめについては前回のときもいろいろ話が出た

と思いますけれども、特に発生件数というか今は認知件数という言い方ですけれども、中学1年生の数が一番多くなっているという実態も割と学校関係者の間でも認識していないというケースもありますので、特に今後いじめにかかわって、校長会その他いろいろな場面で、学校に対して指導の充実徹底を求める機会があると思いますけれども、中学1年生でなぜ多いのかという部分も、それぞれの学校の実情に応じて、しっかりと認識を踏まえた上での指導の充実の徹底を図るということをぜひ伝えていただければありがたいなと思います。

大島委員長

ほかにはよろしいでしょうか。

指導室長どうぞ。

指導室長

中学生科学コンテストというのをことしから東京都が始めまして、これは最終的には全国大会の科学のジュニア甲子園につながるものなのですが、今年度区内から13チームがエントリーをしまして、11月24日に大会がございました。区内で1チームがベスト10に入りました。北中野中学校から出た1チームなのですが、銅賞というところで、これは6位から10位までの中で、中身の順位はわからないのですが、東京都の中でベスト10に入ったというところで、全体で108チームが参加している中でのベスト10ですので、かなり頑張ったのかなと思います。

中身については、筆記があって理科や数学の内容も踏まえた問題が出るということと、実技でものづくりの能力やコミュニケーション能力を用いて課題を解決するという2本柱の内容だったようです。頑張ったということでご報告させていただければと思います。

大島委員長

大変興味深い内容のようですので、その中身をもう少し、そんなに詳細ではなくていいのですが、例えばこんな問題が出てこんなようだったというような状況をもうちょっと、次回にでもご報告いただけると楽しいかなと思います。

指導室長

次回詳細をご報告させていただきます。

大島委員長

お願いいたします。この点についてはよろしいですか。

その他に報告事項はありませんか。

副参事（子ども教育経営担当）

ございません。

大島委員長

では、以上で本日の日程は全て終了いたしました。

ここで傍聴の方に 12 月の教育委員会定例会の開会予定についてお知らせします。12 月の教育委員会定例会の開会予定は議事日程表の裏面に記載のとおりですので、後ほどお読み取りください。

これを持ちまして教育委員会第 36 回定例会を閉じます。

午前 10 時 33 分閉会